

障サ協
広報紙

山口県障害福祉 サービス協議会通信



発行：山口県障害福祉サービス協議会 広報委員会 〒753-0072 山口市大手町9番6号
電話：083-924-2799 FAX：083-924-2798 メール：syougai@yg-you-i-net.or.jp

【令和元年度 障サ協活動テーマ】
障害者福祉をどう地域社会にアピールし、
我が事として定着させるか。

新企画①・座談会

新人職員が語る支援現場への思い 新人職員の本音に迫る

今回からスタートする座談会では、テーマに沿った皆様にお集まりいただき、熱い思いを語っていただきます。今回のテーマは、「新人職員の支援現場への思い」とし、入職1～3年目の職員に障害者福祉に携わるきっかけ、支援現場での喜び、課題、今後の目標等、新人職員としての思いをお話しいただきました。

第1回 障害者福祉に携わるきっかけ

山田 早速、質問させていた
だきたいと思います。障害者
福祉に携わろうと思ったきっ
かけを教えてください。
神徳 僕はもともと広島
の工場に働いていたんですけど、
実家の山口にいらっしゃるお

んが認知症で、たまに実家に
帰って来た時にホームヘルパー
さんが介護している姿を見て
「すごい人の為になる仕事だ
なあ」と思っただけです。僕は
工場の生産の仕事だったので、
「ちゃんと人の役に立ってい
るのかなあ」と実感できてい
なかつたので、そのことがきっ
かけで福祉の仕事に携わろう
と思いました。



和やかな雰囲気で行われた座談会の様子（H31.3.8）
参加者：指定障害者支援施設ゆうあい 生活支援員 神徳貴夫
セルフときわ 生活支援員 中村亮太
柳井ひまわり園 生活支援員 平井奏美
なごみの里 生活支援員 宮地秀子

進行：山口県障害福祉サービス協議会 広報委員長 山田正寛
※参加者の所属・職名は、座談会当時のものです。敬称略。

山田 今は実感を持てますか。
神徳 本当は少しだけですけど
ど。普段笑わない人が笑って
くれると、自分が少しでも役
に立てるのかなと思います。
山田 そうですね。笑っても
らえるって嬉しいですね。
神徳 そうですね。こっちが
元気になったりするんです。
山田 平井さんは、障害者福
祉に携わるきっかけは何だっ
たのですか。
平井 きっかけは、中学校・
高校と障害者施設ボランティア
に行っていて、高校の時は
地域に関わるボランティアを
していたことです。その時に
障害のある後輩の子が周りの
大人達に厳しく指導されてい
るのを見て、私がこれまでの
ボランティアの経験を生かして
穏やかに話してみると、その
後輩の子がすぐに話を聞いて
くれるようになりました。
そういう経験があって自分に
も何かできないかと福祉の仕
事を探していたら、今の施設
長に「うちの施設に来てみな



ゆうあい
神徳貴夫さん

いか一と言ってもらい、障害
者福祉の仕事に就きました。
山田 宮地さんは、どうですか。
宮地 私は、学生時代に短大
で幼児教育学科だったので、
施設に実習に行っていました。
しかし、卒業後に専門職に就
くことはなく、百貨店の化粧品
売場で正社員として10年仕
事をして、子育てを10年して
それからパートで10年ほど働
きました。その後、家庭の事

情でフルタイムの正社員とし
て働きたいと思うようになった
時に、私の知り合いでなご
みの里の支援員として働いて
いた方が、私が幼稚園教諭と
保育士の資格を持っていた
ので、「来てみないか」と
誘ってくださったので、ま
ずは見学してみたいんです。
私の学生時代の実習での障
害者福祉施設は、暗くて、
汚くて、臭くて、厳しくて
……。あまり良いイメージが
なかったです。しかし、な
ごみの里に行ったら、全然
臭くないし、明るいし、利
用者さんも支援員さんも笑っ
ているんです。それから、見
学？」とすごく気軽に話し

今号から紙面をリニューアル

本会では、障サ協事業の
広報・啓発をより効果的に
実施していくため、昨年度
より広報委員会を設置し、
広報紙「障サ協通信」のリ
ニューアルについて協議を
進めてまいりました。

今後は、本会の活動報告
にとどまらず、会員事業所
（施設）の取組や、職員の
リアルな声をお届けし、障
害福祉サービス事業所の現
状をお伝えしていきます。

また、社会から見た障害
者福祉の印象を支援者であ

る私たちが理解するため、
事業所（施設）の出入業者
の方に障害福祉サービス事
業所の印象をインタビュー
した記事を掲載します。

これからの「障サ協通信」
にどうぞご期待ください。
皆様からのご感想もお待ち
しております。

